

「こおりやまの米」通信

平成28年6月1日

編集:郡山市

JA 福島さくら郡山地区本部 (TEL. 921-0533)

NOSAI 福島郡山田村支所 (TEL. 933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (TEL. 935-1310)

発行:郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市園芸畜産振興課 TEL924-3761)



郡山市
イメージキャラクター
「がくとくん」

Vol.4 「除草・防除・中干し」

次回は6月下旬

1 生育状況

播種盛期は4/16 (平年4/17) で平年並であり、移植盛期も5/14 (平年5/16) とほぼ平年並となりました。育苗期間は気温が高い日が続き、ハウス内の気温が上昇したため苗やけの発生が見られましたが、もみ枯細菌病の発生は僅かでした。

移植後も天候が安定し、気温が平年より高く推移したため、活着が良く生育は概ね良好です。

2 天気予報 (東北地方)

【1か月 (5/28~6/25) 予報】 (5月26日 仙台管区气象台発表)

暖かい空気に覆われやすく、向こう1ヶ月の気温は平年並か高いでしょう。期間の前半は高気圧に覆われやすく、向こう1ヶ月の日照時間は平年並か多いでしょう。

週別の天気は、1週目 (5/28~6/3) のはじめは高気圧に覆われて晴れますが、その後は気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。2週目 (6/4~10) の天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすく、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。3~4週目 (6/11~24) の天気は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

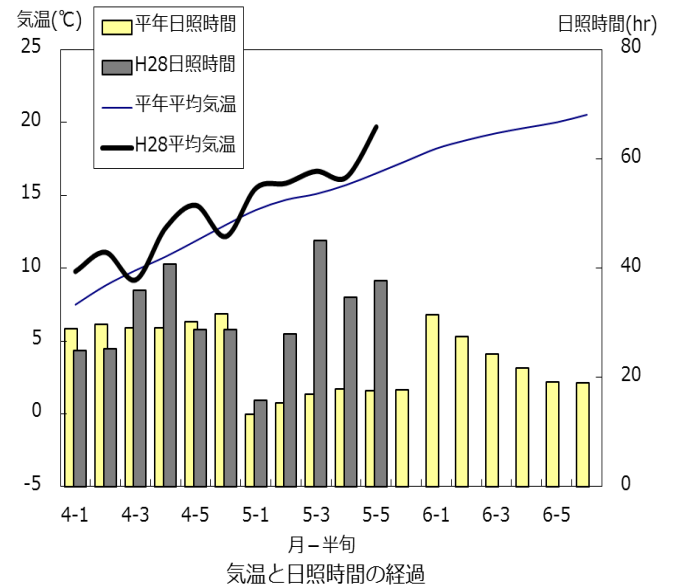
【3か月予報】 (5月25日 仙台管区气象台発表)

向こう3か月の平均気温は平年並か高いでしょう。また、降水量は平年並か多い見込みです。

6月 前半は高気圧と低気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わるでしょう。後半は前線の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

7月 前線や南からの湿った気流の影響で、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

8月 高気圧に覆われますが、南からの湿った気流の影響を受ける時期もあるでしょう。東北太平洋側では天気は数日の周期で変わるでしょう。



3 水管理 「浅水で有効茎を早期に確保しましょう！」

○活着後は、浅水で水温の日較差を大きくし、有効茎を早期に確保しましょう。

○稲の生育が悪い場合は、土壌還元による根腐れで養分を吸収できない状態になっている恐れがあります。田んぼに入るとブクブクと泡が出たり、くさい臭いがしたりする時は、早めに落水し1~2日干してガスを抜きましょう。

4 雑草防除 「確実な雑草対策で生育を確保しましょう！」

(1) 雑草が残った場合

○残った雑草の種類によって除草剤を選択し、適期に追加防除しましょう。

ヒエだけが残った場合 ⇒ クリンチャー 1キログラム剤

移植後7日~ノビエ4葉期 (但し、収穫30日前まで) : 1kg/10a湛水散布

または移植後25日~ノビエ5葉期 (但し、収穫30日前まで) : 1.5kg/10a湛水散布

ヒエ以外の雑草も残った場合 ⇒ ザーベックスDX 1キログラム剤

移植後20~30日 (ノビエ3.5葉期まで) : 1kg/10a湛水散布

【注意】 ※著しい薬害を発生する場合がありますので、30℃以上の高温が予想される場合は使用しない。

⇒ ハイカット 1キログラム剤

移植後15日~ノビエ3.5葉期 (但し、収穫60日前まで) : 1kg/10a湛水散布

広葉雑草だけが残った場合 ⇒ バサグラン粒剤 (ナトリウム塩)

移植後15~55日 (但し、収穫60日前まで) : 3~4kg/10a落水散布、又はごく浅く湛水して散布を行う

【注意】 処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用する。

(2) 藻類、表層はく離が多発した場合

アオミドロ等の藻類や表層はく離の発生量が多いと、水温の上昇を妨げ、分げつ阻害をもたらす生育不良となる恐れがあります。

藻類や表層はく離は、代かき後や田植後の施肥によって発生することがありますが、発生した場合は、落水して田面に付着させてから再度入水するか、**モゲトン粒剤（2～3kg/10a）**を湛水散布してください。

5 葉いもち防除 「葉いもちを発生させないことが最善の穂いもち対策です！」

(1) 置き苗の処分

○補植用の置き苗は葉いもちの発生源となります。

補植作業は5月末までに完了し、置き苗は水田やその周囲に放置しないようにしましょう。

(2) 本田の粒剤防除

○箱施薬剤を使用していない水田では、**オリゼメート粒剤**や**コラトップ粒剤5**を、いもち病の初発10日前～初発時（平坦部では6月20日頃、山間高冷地では6月25日頃まで）に散布しましょう。

散布後7日間程度は落水せず、止水で管理してください。



6 害虫防除 「生育初期から害虫防除を徹底しましょう！」

箱施薬剤を使用していない水田や使用していてもイネドロオイムシが多発した場合は、下記の殺虫剤を使用してください。

農薬名	本剤のみを使用する場合 (成分の総使用回数)	農薬成分の系統	蚕毒規制地域における留意点※
シクロパック粒剤	2回以内（2回以内）	ピレスロイド系	使える
MR. ジョーカー粉剤DL	2回以内（2回以内）	ピレスロイド系	使えない

※蚕毒規制地域・・・田村町、中田町、西田町の一部が該当します。

注1 シクロパックは、湛水深3～5cmで散布し、7日以上湛水状態を保ってください。

注2 ミツバチなどの有用昆虫に対し長期間影響のある薬剤があるため、養蜂業者との連絡を密にし、事故のないようにしましょう。

7 中干し 「有効茎を確保したら、タイミングを逃さずに！」

○1株当たり20本程度の分げつを確保したら、中干しを行い、無効茎を抑えてスッキリ型のイネを作りましょう。

○6～7月は梅雨と重なり、例年雨や曇りの日が多くなります。タイミングを逃さず中干ししましょう。

○溝切り（4～5m間隔）を併せて行い、水の掛け引きを容易に行なえるようにしましょう。

8 カリ追肥 「稲体を強化していもち病に備えましょう！」

稲体の強化などを目的としてカリ資材を追肥する場合は、**出穂40日前（6月下旬～7月上旬頃）**に散布してください。

ケイ酸カリ（出穂40日前） 20kg/10a：でき過ぎた田、コシヒカリに有効
塩化カリ（出穂40日前） 6.7kg/10a：一般田

9 放射性セシウムの吸収抑制対策

○塩化カリの基肥施用を行い、必要に応じてケイ酸カリ等のカリ資材の追肥を行っても、食味や品質に影響はありません。

○吸収抑制対策のために配布している塩化カリ20kg/10aは、最も吸収抑制効果の高い基肥での施用を基本としています。万が一、基肥で十分な量を施用していない場合は、**速やかに全量散布してください。**

この資料は、平成28年5月1日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

※ 農薬危害防止運動実施中（6/1～8/31） ※

適切な保管で誤飲・誤食を防止！（農薬保管庫の施錠） 住宅地などの周辺に配慮！ 保護具も忘れずに！

飼料用米に取り組みましょう！～飼料用米の取組計画申請は6月中です！～

飼料用米取組計画に関するお問合せは、最寄りのJA、米集荷業者（生産調整方針作成者）まで！！